



JFE グループ TODAY
2015



企業理念

JFEグループは、常に世界最高の技術をもって社会に貢献します。

行動規範

挑戦。柔軟。誠実。

STEEL 鉄鋼事業

ENGINEERING エンジニアリング事業

TRADING 商社事業



グループの名称

「J」は日本 (Japan)、「F」は鉄鋼 (鉄の元素記号 Fe)、「E」はエンジニアリング (Engineering) を意味し、鉄鋼とエンジニアリングをコア事業とした「日本を代表する未来志向の企業グループ」(Japan Future Enterprise) であることを表しています。

01 企業理念・行動規範

02 グラビア

16 すべてのステークホルダーの皆様へ



22 特集: グローバルソリューション
~世界の明日を創る~



28 JFEグループの概況

30 鉄鋼事業の概況と特徴

36 エンジニアリング事業の概況と特徴

40 商社事業の概況と特徴

42 ジャパン マリンユナイテッドの概況と特徴

43 JFEグループの歩み

44 CSR活動

46 主要経営指標

48 企業情報

49 マネジメント体制



A large industrial ladle is being tilted by a crane in a steel mill. Molten metal is being poured from the ladle, creating a bright, glowing stream. The background shows the complex structure of the mill with various levels, railings, and pipes. The lighting is dramatic, with the intense orange glow of the molten metal contrasting with the dark, industrial environment.

最新技術で世界に挑む 西日本製鉄所新転炉始動

2014年12月に稼働したJFEスチール西日本製鉄所(福山地区)第3製鋼工場3号転炉は、最新の溶銑予備処理プロセスを導入し、大幅な資源の節約とエネルギーの削減を可能にしました。今後も更なる改善に向けて、積極的な技術開発にチャレンジし続けていきます。

東日本製鉄所 累計粗鋼生産量1億トン達成

東京湾の東西に鉄づくりの拠点を有するJFEスチール東日本製鉄所は、2015年5月に累計粗鋼生産量1億トンを達成しました。最先端の技術を有し、環境に配慮した都市型製鉄所で、お客様の多様なニーズに対応する高付加価値・高機能商品をこれからも提供し続けていきます。

島人の夢結ぶ海の道

一般道路の海上橋では国内最長となる全長3,540メートル、伊良部島と宮古島を結ぶ「伊良部大橋」。
津製作所で製作された全長140メートル、1,300トンの大型橋桁をわずか一日で架設しました。JFEエンジニアリングが国内外で培った橋梁技術が活かされています。



福島の再生復興に向けて

JFEエンジニアリングは、福島県下4カ所で災害廃棄物および除染廃棄物の焼却・減容化処理業務を進めています。2019年6月までにすべての処理を完了させる予定です。豊富な経験・ノウハウを最大限活用し、プロジェクトを安全・円滑・迅速に進めていきます。今後も、グループの総力を挙げて技術力を結集し、被災地の早期復興に貢献します。

業務名：平成26年度 南相馬市対策地域内廃棄物処理業務（減容化処理）
発注者：環境省 東北地方環境事務所 福島環境再生事務所
福島県南相馬市小高区にて平成27年3月24日撮影

北米における鋼管流通分野へ 本格的に参入

2014年12月、JFE商事は米国のKelly Pipe Co., LLCを買収しました。Kelly Pipeは1898年創業の多種多様な鋼管製品を供給する大手老舗鋼管問屋。カリフォルニア州に本社を構え、全米21カ所、カナダ・イギリス・コロンビアに各1カ所の販売拠点と、外部倉庫45カ所を保有します。Kelly Pipeの持つ多様な製品群と全米を網羅する販売網に、JFE商事グループの強みであるトレード機能とワールドワイドなネットワークを組み合わせ、JFEグループの製品および国内外各ミルの製品販売を拡大していきます。



最新鋭の 超大型原油タンカー(VLCC) “ENEOS OCEAN”

呉事業所で建造した本船は、国内の港湾規制緩和を考慮し、全長を長くするとともに、最新の解析技術を用いて最適な船体形状を追求した、ジャパン マリンユナイテッド(JMU)の最新鋭VLCCシリーズの一番船です。また、船尾にJMUが独自に開発した各種省エネデバイスを装備し、主機関には、国際海事機関(IMO)のNOx二次規制をクリアした最新鋭の電子制御エンジンを採用するなど、経済性と環境保護に優れたエコシップです。



製造現場の最前線で活躍する 多様な人材

JFEグループでは、女性や外国人など多様な人材が、その能力を最大限に発揮し活躍できる環境を整え、ダイバーシティを推進しています。その取り組みが評価され、経済産業省と東京証券取引所が女性活躍推進に優れた企業を紹介する「なでしこ銘柄」に、2年連続で選定されました。





JFEグループの発足以来、皆様には、平素より温かいご支援・ご理解を賜り、心から御礼申し上げます。

このたび、代表取締役社長に就任いたしました。JFEグループは、2002年の創設以来、“鉄”を中核とした素材の可能性を社会に幅広く活かすべく事業を展開してきました。また事業の遂行にあたっては、企業として持続的な成長を図るとともに、地球環境との共存や企業倫理の徹底を掲げ、すべてのステークホルダーにとっての企業価値の向上に努めてまいりました。

第5次中期経営計画を策定

当社は、2015年4月に2015～2017年度の事業運営の指針となる「JFEグループ 第5次中期経営計画」を発表いたしました。

現在のJFEグループを取り巻く事業環境としては、国内では国土強靱化の取り組みや2020年東京オリンピック・パラリンピックへの対応など底堅い需要が見込まれ、海外でも新興国を中心とした社会インフラ増強や省エネルギー・環境対応ニーズの拡大が期待されます。一方、国内における少子高齢化の進展、原油などの資源価格や為替の大幅な変動、世界各地の政治・経済情勢の変化などさまざまな環境変動も予想され、これらへの的確な状況判断と迅速な対応が求められています。

今回策定した「第5次中期経営計画」では、JFEグループはこうした事業環境に「技術優位性」「多様な人材力」「グループの総合力」を高めることで対応し、国内収益基盤の強化と海外事業の収益拡大を推進することを掲げ、それにより、持続的な成長と企業価値の向上を図ってまいります。

第5次中期経営計画の主な取り組み

- 国内収益基盤の強化
- 技術優位性による企業価値向上
- 海外事業の収益拡大
- 多様な人材の確保と育成
- 持続的な成長を支える企業体質強化

ステークホルダーの皆様とともに

私たちは、経営の原則である「公平・公正・透明」を貫き、「挑戦。柔軟。誠実。」の行動規範のもと、「常に世界最高の技術をもって社会に貢献する」ことを企業理念に21世紀のエクセレントカンパニー集団を目指して挑戦し続けてまいります。

JFEグループは、お客様・株主様・従業員・地域社会ほかすべてのステークホルダーの皆様と長期的な信頼関係を築きながら、これからもともに歩んでいきたいと考えております。

2015年6月

JFEホールディングス株式会社
代表取締役社長(CEO)

林田 英治

Q.1 第4次中期経営計画の成果と課題について教えてください。

4次中期では、事業ポートフォリオの見直し、コスト削減と国内製造基盤整備、海外プロジェクトの拡大など、企業体質の強化に取り組み、成果を上げることができました。また、収益面も着実に向上させることができました。

一方、鉄鋼事業において、世界的な供給過剰が進行し、海外の市場環境は想定以上に厳しいものとなりました。このような市場環境のもと、経済性を重視した生産・販売を行い、過去平均を大きく上回るコスト削減を積み上げるなど自助努力を行いました。4次中期に設定した収益目標(ROS10%)には届きませんでした。しかしながら、中長期的視点で国内製造基盤の整備を進めるなど、収益を着実にあげていく体制を整えることができたと考えています。

Q.2 第5次中期経営計画の主要施策について教えてください。

第5次中期経営計画では、次の5つの施策に取り組んでいきます。

(1)国内収益基盤の強化

国内需要を最大限捕捉するだけでなく、お客様・市場のニーズに的確かつ迅速に対応する営業体制を構築し、サービスの向上を図ります。製造拠点の収益力強化では、設備の更新・補修による安定製造を目的とした基盤整備にとどまらず、コスト削減や高級鋼へのプロダクトミックスシフトを可能とする設備のリノベーションを進め、更なる競争力強化を図ります。

(2)技術優位性による企業価値向上

革新的な技術開発に取り組み、世界をリードする

技術を生み続け、競争力を高めていきます。省資源・省エネルギー先進技術の更なる高度化へのチャレンジを続け、常に世界最先端・最高水準の技術・商品を提供できるサプライヤーを目指します。

(3)海外事業の収益拡大

JFEグループ全体の海外投資

2,000億円/3カ年規模を計画

これまでに投資した海外プロジェクトについて、現地の需要を着実に捕捉し、各地域の特性に応じた事業運営を図り、更なる収益拡大に取り組むとともに、グループの技術力・ネットワークを最大限活用し、将来の成長が期待される重点分野・成長地域への新規事業投資を継続していきます。

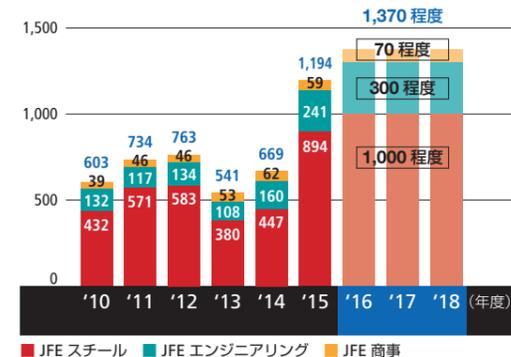
(4)多様な人材の確保と育成

JFEグループ採用規模(単独ベース)

JFEスチール	1,000人/年程度
JFEエンジニアリング	300人/年程度
JFE商事	70人/年程度

当中期計画を推進していくため、多様な人材の採用と育成を着実に進めていきます。

採用人数(人)



(5)持続的な成長を支える企業体質強化

最終年度(2017年度)財務目標

ROE(自己資本利益率)	10% 超え
財務体質	国際格付A格相当

株主還元方針

配当性向	25%~30%程度
------	-----------

グループの成長を目指した投資の遂行、国内収益基盤強化および海外事業収益拡大により財務体質の改善、収益・キャッシュフローの改善を図ります。

株主の皆様への還元については、配当性向を現行の25%から高めていきます。また、コーポレートガバナンスの強化、環境経営の徹底についても積極的に取り組んでいきます。

Q.3 各事業ではどのような取り組みを進めていくのですか？

【鉄鋼事業】

製造実力の向上に一層磨きをかけ、「常に新たな価値を創造し、お客様とともに成長するグローバル鉄鋼サプライヤー」を目指します。お客様志向で国内・海外に販売を展開し、JFEブランドの浸透・拡大(当中期で4,000万トン、将来的には5,000万トン)を図るとともに収益拡大に取り組んでいきます。

最終年度(2017年度)収益目標

ROS(売上高経常利益率)	10%
---------------	-----

《鉄鋼事業の具体的取り組み》

① 製造実力の更なる向上

国内製造基盤の更なる強化を行い、安定製造とコスト削減や高級鋼へのプロダクトミックスシフトを推進し継続的なコスト削減を図ります。また、最新のICT(情報通信技術)を活用し、製鉄所システムの刷新による業務改革にも着手し、世界トップクラスの製造実力の維持と向上を目指します。

【コスト削減】 1,100億円/3カ年
 【国内設備投資】 6,500億円/3カ年
 (対4次中期+1,700億円)規模

② 世界をリードする技術開発力強化

お客様のニーズを把握し、最先端技術・革新的な製造プロセスを活用した新商品開発により、販売量を拡大します。またプロセス技術の開発などにより、コスト削減や製造実力の向上を図ります。これらの技術開発を強化・推進するため、研究開発費を10%程度、研究員数を7%程度拡充します。

③ お客様志向の販売活動強化

商品開発・販売機能の一体化とグループ会社との連携を強化し、お客様にとって魅力あるサービス価値を継続的に提供します。

④ 海外事業の推進

これまで進めてきた海外プロジェクト投資からの収益拡大に取り組むとともに、技術優位性に基づき、自動車、エネルギーをはじめとする重点分野での事業展開を図ります。

⑤ 技能伝承と人材育成の継続

技能伝承・人材育成を重視した施策をJFEスチール・グループ会社・協力会社の区分なく実施し、技能の伝承に留まらず、多様な人材の活用やIT化の推進などにより、技術力・現場力の確実な向上に取り組めます。

【エンジニアリング事業】

国内の需要を最大限捕捉するとともに、海外ではごみ焼却炉・水処理プラント・鋼構造などJFEエンジニアリングが優位性を持つ、都市インフラ・環境エネルギー分野を中心にプレゼンスを一段と高め、

事業規模の拡大を図ります。また、事業提案から建設、運営までの一貫サービスの提供を通じて、お客様のニーズに応じたトータルソリューションを提案していきます。

最終年度(2017年度)収益目標

連結売上高 5,000億円
 連結経常利益 300億円

＜エンジニアリング事業の具体的取り組み＞

- ① 海外事業の拡大
- ② 多様な発電プラントによる電力創生
- ③ 提案型の一貫サービスの提供
- ④ 新商品の開発と市場投入

【商社事業】

マーケットの拡大や現地調達化など、地産地消の動きに対応した地域戦略の強化により鋼材販売量の拡大を図るとともに、在庫・加工・リテール販売などの機能を戦略的に組み合わせることにより、サプライチェーン全体の価値を向上させる提案を行っていきます。海外投資も、既に実施した案件の収益貢献度を高めるとともに、JFE商事グループのプレゼンスを強化するための投資を積極的に進めます。

最終年度(2017年度)収益目標

連結経常利益 300億円

＜商社事業の具体的取り組み＞

- ① マーケットの開拓(鋼材販売量拡大)
- ② 付加価値の創造
- ③ JFE 商事グループ力の強化

Q.4 今回、「人材マネジメント基本方針」を制定したとのことですが？

JFEグループすべての人材がその能力を最大限発揮できる環境を整えるべく、今回の中期経営計画の公表にあわせて「JFEグループ人材マネジメント基本方針」を制定しました。

＜JFEグループ人材マネジメント基本方針＞

- ① 人権の尊重と公平・公正な人材マネジメントの推進
 すべての社員の人権を尊重するとともに、JFEグループ行動規範、企業行動指針の精神を実現する人材を育成し、公平・公正な人材マネジメントを行う。
- ② 「人を育てる企業風土」の醸成と「働きがいのある職場」の構築
 双方向のコミュニケーションの充実により、風通しの良い、人を育てる企業風土を醸成し、安全で魅力に富み、働きがいのある職場環境を構築する。
- ③ ダイバーシティの推進
 女性・外国人・高齢者・障がい者等を含めた多様な人材が、その能力を最大限に発揮し活躍できる環境を整える。
- ④ 優秀な人材の確保および育成の着実な実施
 複雑化・多様化する変化の激しい経営環境のもと、グローバル競争を勝ち抜くため、多様かつ優秀な人材を安定的に採用し、技術力・現場力の強化に必要な技術・技能の蓄積と伝承、グローバル人材の育成を着実に実施する。

Q.5 JFEホールディングス社長としての抱負を教えてください。

JFEグループが持続的な成長を遂げていくためには、「遠心力」と「求心力」の二つの力が重要になると

考えています。「遠心力」とは、それぞれの事業が独自に発展していくというマインドを持ち経営していくことで、当社としては可能な限りこれを支援していきたい。一方で「求心力」はJFEグループの価値観、方針、理念を踏まえ、財務規律を守りながら、事業展開の舵取りをしていくことです。

これらをバランスさせながら、JFEグループ全体の企業価値向上に向けて取り組んでいきたいと考えています。

Q.6 最後に、全従業員に向けて、「JFEグループの将来の姿」と「その実現に向けて求められる人材」について、メッセージをお願いします。

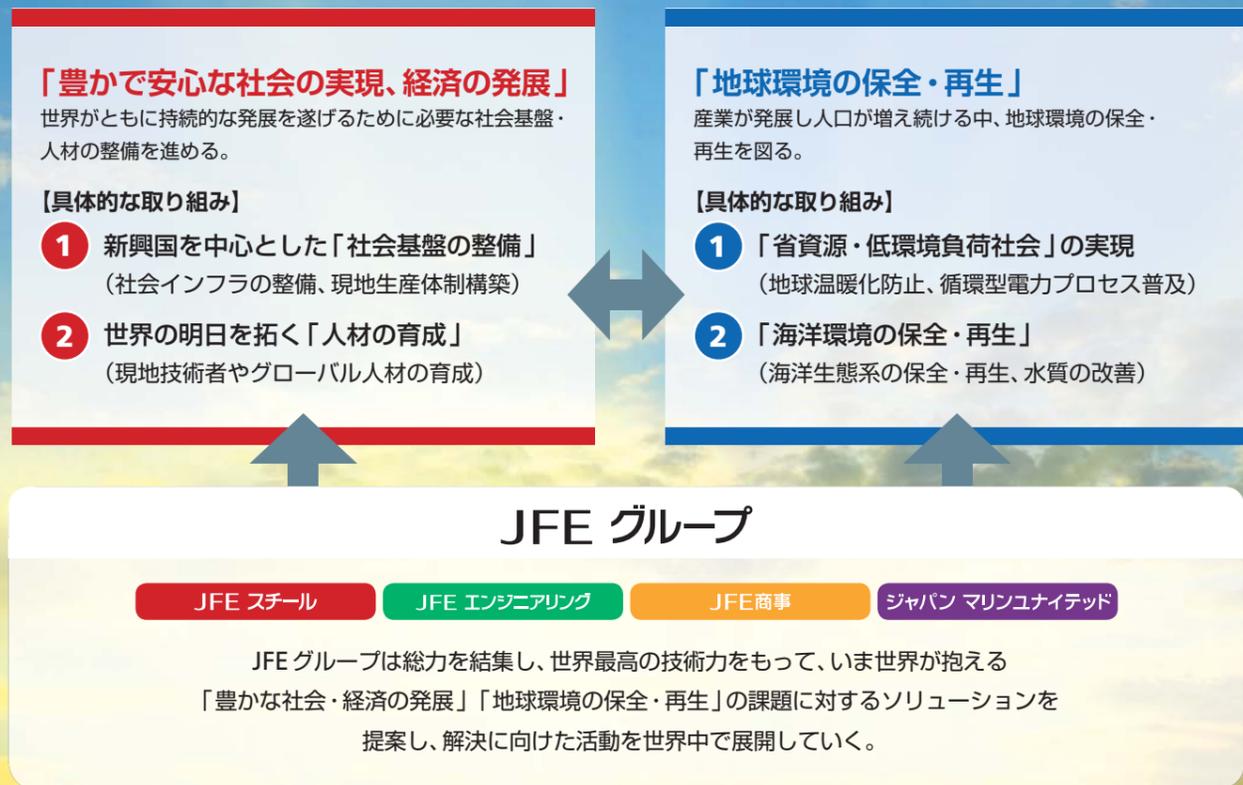
「常に将来の目標に向かって持続的に成長していきける企業グループ」でありたいと考えています。ただし、その持続的成長はそれぞれの事業会社が持つ「技術」に基づいたものでなくてはなりません。鉄鋼事業・エンジニアリング事業はもちろんですが、商社事業についても独自の知識・ノウハウを駆使してお客様のニーズに対応したビジネスを創造していけば、更なる成長を遂げていくことは可能です。「常に世界最高の技術をもって社会に貢献する」という企業理念は10年後も変わらないと考えています。

従業員の皆様をお願いしたいことは、「ミッション(使命・目標)」を明確に認識し、「パッション(情熱・信念)」を持って仕事に取り組み、自らが「アクション(行動)」すること。また、自らの考えが正しいか判断するために、お客様や社会が何を求めているか、広く情報を受信する力を身につけていただきたいと思います。

グローバル ソリューション

～ 世界の明日を創る ～

昨年の特集では、東日本大震災からの復興、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催など、再生・発展への道を歩み始めた日本に果たすJFEグループの役割を「ニッポン再生への貢献」と題して紹介しました。本年の特集では、日本から視線を転じ、現在、世界が抱える「社会・経済の持続的発展」「地球環境の保全・再生」という課題に焦点を当てます。その中でこれらの課題解決に向けたJFEグループの新たな取り組みを紹介していきます。



豊かで安心な社会の実現、 経済の発展

世界の国々がともに発展し、豊かで安心な社会を実現するためには、新興国の経済成長が欠かせません。その実現には、電力・ガスなどのエネルギー供給体制の整備や橋梁・道路・港湾設備などの「社会インフラの整備」が必要です。また、経済発展の動力源となる「基幹産業の育成」や産業の振興を支える「人材の確保・育成」も不可欠です。JFEグループは、すべての産業の基盤となる高品質な鉄鋼商品の供給、ならびに最先端技術力をベースとしたエンジニアリング事業を通じて、ソリューションを提供しています。

1 新興国を中心とした「社会基盤の整備」

JFE エンジニアリング

新興国の経済発展を橋梁建設で支援

JFEエンジニアリングは、1980年代から海外の橋梁建設工事に携わり、数多くの著名な橋梁を建設してきました。モンゴルでは2012年10月、首都ウランバートル中心部で、鉄道により分断されていた北側の商業地区と南側の工業地区間を結ぶ高架橋「太陽橋」を完成させました。経済発展の著しいウランバートル市街の交通網整備に大きな役割を果たしています。

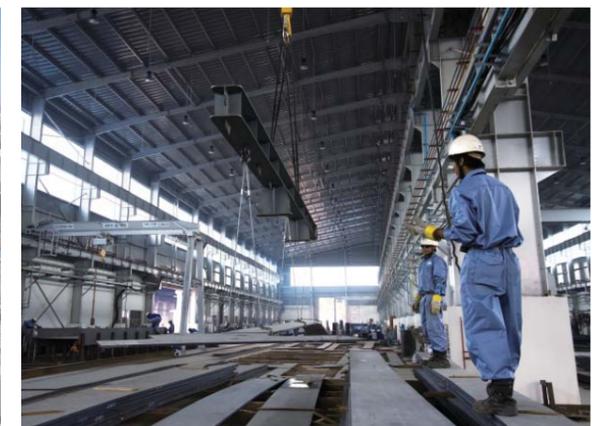
近年、民主国家へと移行し「アジア最後のフロンティア」と呼ばれているミャンマーにおいても、2013年11月にミャンマー国建設省とJ&Mスチールソリューションズを設立し、2013年12月には、首都のヤンゴン市に、橋梁などの鋼構造物を製作する工場の建設を開始しました。2014年7月には、隣国ラオスのトラス橋梁向けの橋梁ブロックを出荷。工場は現在、同国内外のインフ

ラ整備に向けフル稼働の状態です。2016年3月末には、生産能力を年産1万トンから2万トンへ拡大するほか、建屋の増築、用地の倍増など拡張を進めています。

今後も、東南アジア諸国、中東、アフリカといった後発開発途上国のインフラ整備と経済発展に貢献していきます。



モンゴル最大の鋼製橋梁「太陽橋」



J&Mスチールソリューションズの鋼構造物製作工場

JFE スチール

自動車用高性能鋼板の現地生産を通じてアジア地域の経済発展に貢献

経済発展が進むアジア地域では、さまざまな分野で現地需要が伸びており、自動車産業においても、現在、世界の5割の台数を生産するまでに成長しています。JFEスチールは、これらの拡大する需要に応えるべく、日本からの直接輸出に加えて、タイ・インド・中国などの地域で、高性能鋼板の現地供給体制を構築し

てきました。更には、インドネシアにおいても自動車用溶融亜鉛鍍金ラインの建設を進めており、2016年3月の稼働開始を予定しています。

これらの体制整備を通じて自動車会社の現地調達要請および高度化するニーズに応え、アジア地域における自動車産業の基盤整備と経済発展に寄与していきます。



タイ溶融亜鉛鍍金ライン

JFE スチール

JFE 商事

北米地域のエネルギーインフラ整備に貢献

世界のエネルギー開発において、開発地域や環境は変化し続けており、北米地域においても、お客様のニーズが多様化しています。こうした状況の中、JFEスチールが50%出

資する米国の鉄鋼メーカー カリフォルニア・スチール(CSI)社は、2014年10月に新しい電縫管製造設備の営業生産を開始しました。それにより、製造能力は2.6倍に増加し、製造可能な最大外径も大幅に拡大、厚肉化・高強度化に対応できる体制が整いました。

一方、JFE商事は、米国で100年以上の歴史を誇る大手鋼管問屋 Kelly Pipe Co., LLC の100%持分を取得し

ました。同社は、主な商品として、油田と製油所などを直結する「ラインパイプ」、石油・天然ガスの採掘時に利用される「油井管」水道管やガス管などの「一般管」を供給しており、米国カリフォルニア州を本拠地とし、全米に21拠点、カナダ、英国およびコロンビアに各1拠点を有しています。

CSI社が製造する高品質な鋼管商品を、Kelly Pipe社のグローバルネットワークを最大限活用してお客様に提供することで、北米を中心としたエネルギーインフラ整備に貢献していきます。



CSI社

JFE スチール

高品質鋼管の現地生産を通じて、中近東諸国の開発を支援

UAE、サウジアラビアなど6カ国で構成されるGCC(Gulf Cooperation Council: 湾岸協力会議)諸国は、世界トップクラスの原油・天然ガス埋蔵量を誇ります。

GCC諸国においてパイプライン用鋼管の需要増が見込まれる中、

JFEスチール、伊藤忠丸紅鉄鋼(MISI)、アブダビ首長国100%出資の投資事業会社SENAAT社の3社は、2018年10月の生産開始に向け、アブダビにおける大径溶接鋼管の製造・販売会社を設立しました。

新会社は、JFEスチールの高級大径溶接鋼管製造に関する技術力とMISIの販売力、SENAAT社のアブダビにおけるプレゼンスを活かし、中近東地域におけるエネルギー産業の持続的な開発を支援していきます。

2 → 世界の明日を拓く人材の育成

JFE スチール

技術支援により新工場の立ち上げに貢献

インドJSWスチール社の新冷延工場立ち上げ支援を2012年7月から実施しています。設備の基本計画検討への参画、設備と操業に関するノウハウの提供を行い、延べ19名のスーパーバイザーが試運転段階から参画し、営業運転に導きました。現在は、製品のアップグレード取得支援と品質・操業改善支援をメインとした協力を行っており、これらの技術支援によりインド鉄鋼業の発展に貢献していきます。



JSWへの技術支援

JFE エンジニアリング

アジアの明日を担う現地技術者を育成

エンジニアリング企業において海外事業の拡大、および営業・設計・製作、事業運営に至るまでの一貫した現地化の実現には、地域の事情に精通した人材の確保が不可欠です。JFEエンジニアリングは、現地人材の育成・拡充に注力しており、フィリピンでプラント設計を手がけるJFEテクノマニラ社では、現在300名もの現地採用エンジニアが活躍しています。これからも、アジア地域の明日を担う現地技術者の育成を進めていきます。



現地技術者を育成

〈世界の人口増を支える「食」の安定供給〉

JFE エンジニアリング

「スマートアグリシステム」で農作物の安定供給を実現

「スマートアグリシステム」は、JFEエンジニアリングが保有する天然ガスやバイオマス、地熱などのエネルギー利用技術に、2014年6月に業務提携した、オランダPriva社の高度栽培制御システムを組み合わせた農業生産プラントです。地域の気候やエネルギー事情にあわせ最適化することで、効率的な栽培が可能となります。

2014年8月から、北海道苫小牧市の第1号プラントで生産事業を開始。2015年4月には、シンガポールで糖度

10以上の高糖度トマトの試食販売を実施し好評を博しました。今後は、国内外で、その地域に最適な農業生産プラントを提案し、食料の安定供給に貢献していきます。



苫小牧市のスマートアグリプラント

JFE 商事

GEISHA 缶の販売を通じてアフリカの安全・安心な食に貢献

世界の人口は、現在の約70億人から2100年には100億人を超えることが予測されており、特にアフリカ大陸の伸びは顕著で、同年にナイジェリアが世界3位になると言われています。

JFE商事の100%子会社である川商フーズでは、1950年頃からGEISHA缶の販売をアフリカ、中国、東南アジア

で開始しました。食料自給率が低く、冷蔵・冷凍インフラが整備されていないアフリカでは、安全な魚の缶詰は貴重なタンパク源。販売当初から幅広い支持を集め、現在、アフリカ各国の国民食として安心・安全な「食」を支えています。



GEISHA 缶

地球環境の保全・再生

持続可能な社会の実現には、「経済成長」と「地球環境の保全」の両立が必要です。しかし、産業規模の拡大や人口増加を伴う現代社会の発展は、本来豊かであった大気・土壌・海洋などの地球環境に悪影響を与えています。CO₂排出削減は遅々として進展せず、海洋も水質が悪化し生態系が損なわれつつあります。

JFEグループは、世界最高のエネルギー効率を誇る製鉄技術と環境配慮型の高機能鋼材の提供を通じ、また、再生エネルギーや廃棄物を電力に活用した循環型プロセスの普及などを通じ、経済発展と環境保全の両立に挑戦しています。

1 省資源・低環境負荷社会の実現

JFE スチール

製鉄プロセスのエネルギー効率を大幅に向上—CO₂排出削減に貢献する Super-SINTER® 技術

JFE スチールは、製鉄プロセスにおける省資源化を通じ、低環境負荷社会の実現に向けた技術開発を積極的に進めており、「Super-SINTER®」が「平成26年度全国発明表彰 経済産業大臣発明賞」および「大河内記念技術賞」を受賞しました。本技術は、高炉の主



Super-SINTER®(京浜地区)

原料となる焼結鉱の製造プロセスにおいて、粉コークスの一部代替として炭化水素ガス(都市ガス)を使用する技術です。炭化水素ガスは、粉コークスと燃焼ポイントが異なるため、燃焼最高温度を上昇させることなく最適な焼成反応温度を長時間保持することが可能となり、製鉄プロセスにおけるエネルギー効率を大幅に向上させ、CO₂排出削減に寄与します。

さらに、「Super-SINTER®」技術を進化させた「Super-SINTER® OXY」では、焼成反応温度を従来よりも2倍以上の時間、保持することが可能となりました。本技術は、当社が世界で初めて商業運転に成功し、安定操業を継続しています。

今後も、世界最高の技術開発への取り組みを通じて、低環境負荷社会の実現に貢献していきます。

JFE エンジニアリング

廃棄物発電とバイオマス発電のプラント建設で、世界の都市環境対策とエネルギー政策に貢献

ごみ処理施設で発生する熱エネルギーから電気をつくる「廃棄物発電」や、天候に左右されない24時間発電が可能な「バイオマス発電」が、都市環境対策とエネルギー政策の観点で世界的に注目を集めています。

JFE エンジニアリングは、ストーカ炉や高温ガス化直接溶融炉など「廃棄物発電プラント」のトップメーカーとして、日本を中心に350基以上の建設実績を有しています。また、

「バイオマス発電プラント」においても、循環流動層ボイラを用いた大型プラントを全国に建設しています。

2014年12月には、ドイツのスタンダードケッセル・パワーシステムズHD (SPSH) 社の全株式を取得しました。同社は欧州を中心に、幅広い燃料に対応する高度な燃焼技術に基づいた高効率な「廃棄物発電プラント」と「バイオマス発電プラント」の実績を200基以上有するプラン

トエンジニアリング企業です。

事業のグローバル化を一層加速し、省資源・低環境負荷社会の実現に向け最先端技術を提供していきます。



SPSH社傘下のバウムガルテ・ボイラ・システムズ社が手がけた独シュレムベルグ・廃棄物発電プラント(2013、年処理量960t/日)

JFE エンジニアリング

現地ニーズを徹底追求した水処理ソリューションで新興国の環境保全に貢献

フィリピンは、ASEAN諸国でインドネシアに次ぐ約1億人の人口を擁し、マニラを中心に安定した経済発展を遂げています。現在、マニラ首都圏の上下水道は、1997年の民営化以降、東西に区分して開発が進められ、下水道や水処理施設の整備が急ピッチで進められています。

マニラのポブラシオン下水処理場

はマカティ市役所の面前にある既存の洪水調整池上に建設したもので、限られた土地利用の革新性が高く評価され、国際水協会 Innovation 賞を受賞しました。

マニラ首都圏の下水処理施設29カ所の実績を有するJFE エンジニアリングは、今後も、東南アジア諸国の下水処理施設の整備により、環境

保全に貢献していきます。



マニラ ポブラシオン下水処理場(2012年、処理規模11,000m³/日)

2 海洋環境の保全・再生

JFE スチール

鉄鋼スラグを有効利用—マリンブロック®の供給を通じて珊瑚礁の再生に貢献

JFE スチールでは、1998年に製鉄プロセスで派生する副産物の有効利用として、「マリンブロック®」を世界で初めて開発しました。「マリン



マリンブロックでのサンゴの産卵

ブロック®」は、鉄鋼スラグに二酸化炭素を吹き込み固化したもので、珊瑚や貝殻と同じ主成分を有することから、国内をはじめ海外の海域でも珊瑚礁の再生に利用されています。

2007年には、国立大学法人東京海洋大学とインドネシアのサムラトランギ大学が共同で、「マリンブロック®」を活用したインドネシア海域での珊瑚の生育環境調査を開始。珊瑚幼生の着床および生育が確認され、

現在は本格的な実証試験に入っています。

「マリンブロック®」のほかにも、海洋生物・藻類の生息基盤の構築や藻場造成に貢献する砂利状のスラグ商品「マリンストーン®」や準硬石相当の人工資材「マリンロック®」などが利用されています。

今後も、鉄鋼スラグの有効利用を通じて、海洋環境の保全・再生に努めていきます。

JFE エンジニアリング

バラスト水処理装置「JFE バラストエース®」で世界の海の生態系を守る

船底の“重し”として利用されるバラスト水は、出港する際に港でバラストタンクへ積み込まれ、荷物を積載する際に、船外へ排出されます。この排出により、バラスト水に含まれる海洋生物が外来種として生態系に影響を与えていることが国際的な問題となり、国際海事機関(IMO)によりバラスト水管理条約が採択され、すべての外航船にバラスト水処理装

置の搭載が義務化される予定です。

この課題に対応するJFE エンジニアリングのバラスト水処理装置「バラストエース®」は、既に700隻超の船舶に採用されています。同商品は、バラスト水の積み込み時にフィルターでろ過し、ろ過後の海水を薬剤処理することで海洋生物の除去を図るシステムです。今後も、同商品の提供に加え、世

界における点検・整備拠点の拡充を通じて、海洋環境の保全に努めていきます。



JFE バラストエース搭載積船

JFEグループ — 「鉄」を中核とした “素材の可能性”を社会に 幅広く活かしています

JFEグループは、2002年、NKKと川崎製鉄が持株会社「JFEホールディングス」を設立してスタートしました。以来、「常に世界最高の技術をもって社会に貢献する」ことを企業理念に、21世紀のエクセレントカンパニー集団を目指しています。



持株会社

JFEホールディングス

戦略機能を発揮して企業価値を最大化

JFEホールディングスは、持株会社として、グループ全体の経営戦略策定や資金調達を行うとともに、上場会社として、対外的な情報発信を担ってきました。また、事業会社は、事業分野ごとの特性に応じた最適な業務執行体制により、競争力の強化と収益力の拡大を通じて企業としての持続的な成長を図り、企業価値の向上に努めています。

鉄鋼事業

JFEスチール

お客様のニーズに対応した高機能商品を展開



世界トップクラスの鉄鋼一貫メーカーです。東西2大製鉄所体制による高い国際競争力を持ち、世界有数の技術と商品開発力を活かした「お客様の多様なニーズにお応えする」各種高付加価値商品を製造・販売しています。



エンジニアリング事業

JFEエンジニアリング

環境、エネルギー分野で最新技術を提供

コアとしている都市環境・エネルギー分野では、多様な資源をクリーンエネルギーとして有効利用するための技術を提供しています。また、橋梁などの鋼構造や産業機械の分野にも展開しています。



商社事業

JFE商事

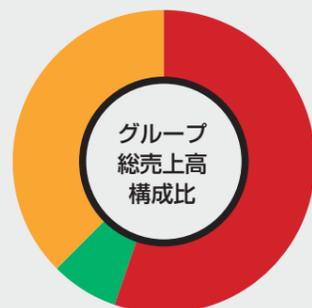
グループ中核商社として、新たな価値を創造

鉄鋼製品の取り扱いを中心に、鉄鋼原料・非鉄金属・化学品・燃料・資機材・船舶の国内取引および輸出入取引を行い、食品・エレクトロニクス事業も展開しています。



(持分法適用会社)
ジャパン マリンユナイテッド

省エネ技術を強みにグローバルなニーズに対応
7事業所・工場、2技術研究所体制で、タンカー・撒積み船・コンテナ船などの大型一般商船や護衛艦・掃海艇などの各種艦艇、砕氷艦の建造、修繕を手がけています。



3兆8,503億円
(2014年度)

JFEスチール	74.6%	(2兆8,738億円)
JFEエンジニアリング	9.5%	(3,673億円)
JFE商事	50.2%	(1兆9,344億円)

※グループ内取引調整額 △34.3% (1兆3,253億円)



製造実力の向上に一層磨きをかけ、常に新たな価値を創造し、お客様とともに成長するグローバル鉄鋼サプライヤーを目指します。

JFEスチールは、世界トップクラスの生産規模と高い技術開発力を有し、増大する高級鋼の需要に応えてきました。今後も次代を担う独自性や機能性の高い商品の開発を積極的に推進し、国内のお客様に安定的にお届けしていくとともに、海外メーカーとの提携などにより高級鋼の製造・販売ネットワークの構築を進め、世界各地へ優れた商品を提供していきます。また、地球環境問題など社会のさまざまなニーズにもお応えするべく、挑戦し続けていきます。

代表取締役社長(CEO) 柿木 厚司



鉄鋼事業の概況と特徴

大型高炉を保有する2つの大規模製鉄所

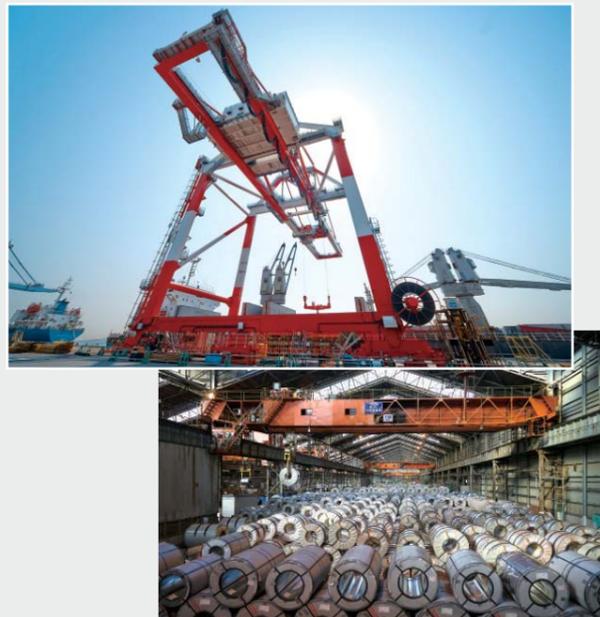
東日本製鉄所の千葉地区は、戦後、わが国で初めて建設された銑鋼一貫の臨海製鉄所です。また、京浜地区は、東京湾に浮かぶ約550万㎡に及ぶ人工島、扇島に立地しています。西日本製鉄所の倉敷地区・福山地区は、深い港湾があるなど優れた立地条件にあり、敷地面積は両地区で東京ドームの約540倍に相当します。両製鉄所とも世界最大級の大型高炉を持ち効率的な生産体制を構築しています。

また、知多製造所は、中京工業地帯に立地し、油井管やラインパイプをはじめ、各種鋼管の品揃えが世界一の鋼管専門工場です。



JFEブランド確立のためお客様満足度を徹底追求

お客様に選ばれる「JFEブランド」の確立に向けて、商談、商品設計から製造・デリバリー・品質保証までの一貫したサービス・サポート体制の強化に取り組み、お客様満足度の徹底追求を図っています。



JFE スチール

JFEスチール製造拠点

西日本製鉄所



福山地区



倉敷地区

東日本製鉄所

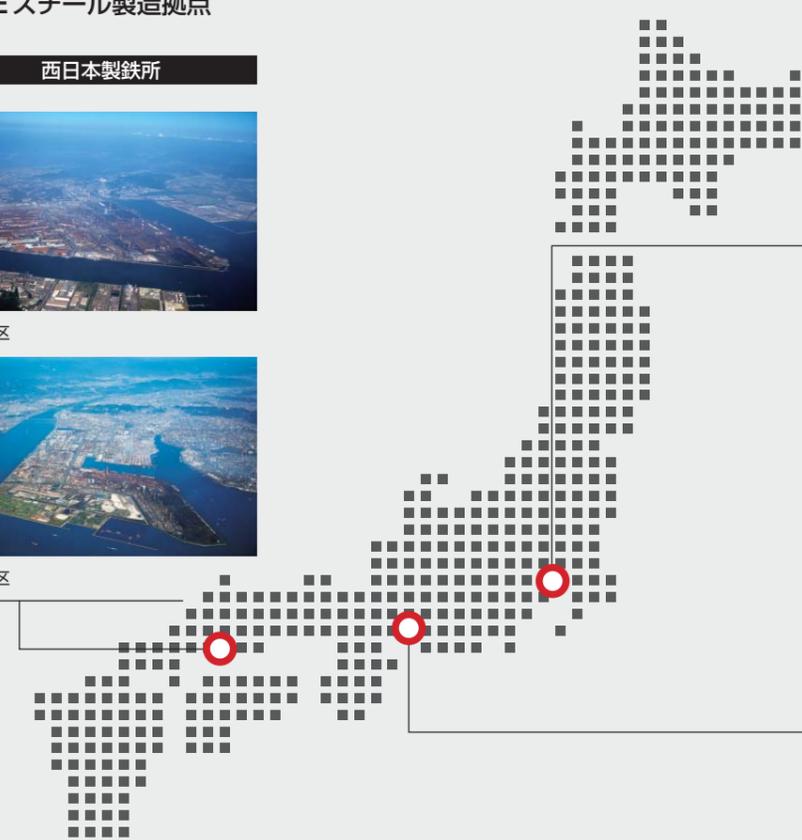


千葉地区



京浜地区

知多製造所



国内製造基盤の整備

国内製造拠点の操業安定化・コスト競争力の向上を目的に、足元の重点課題として、設備・人の両面での製造基盤整備に取り組んでいます。設備については、稼働から年月が経過して効率が落ちてきた設備を中心に、補修・リフレッシュ工事を積極的に進め、設備の競争力を維持・強化していきます。具体例としては、原料荷役・搬送設備の集中補修や、コークス炉などの設備更新を進めています。人

については、団塊世代の大量退職により、全社的に大幅な世代交代を迎える中、ベテラン社員の技能を若手に伝承するため、職場毎に人材育成の専任者を配置する「テクニカルエキスパート」を導入しています。人材育成専任者には、ベテラン社員や再雇用したOBを活用しており、トラブル時の対応などを中心とした技能伝承を着実に進めていきます。



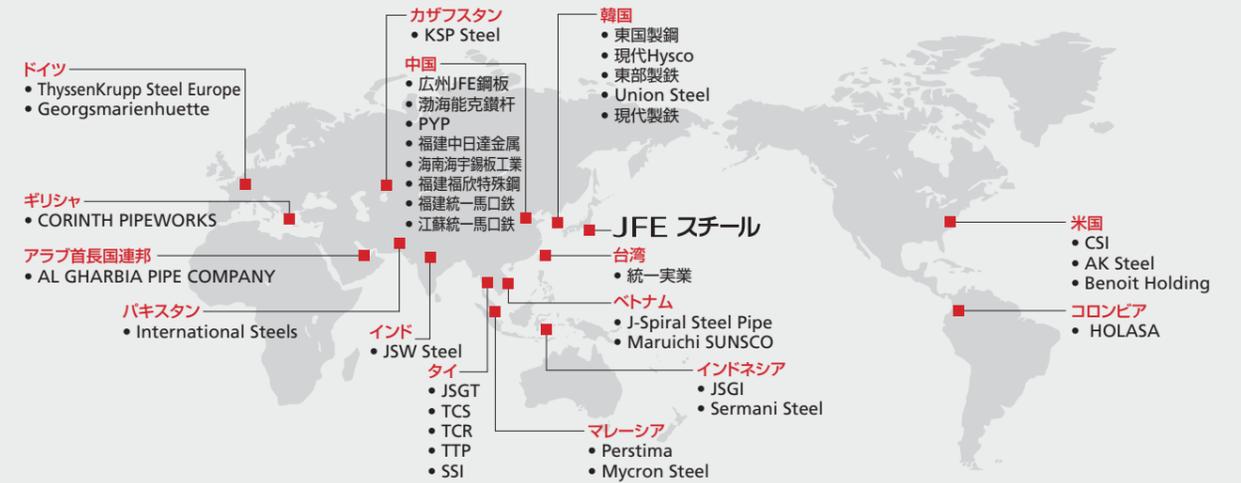
伸びゆく世界市場へ着実にアクセス

世界の鉄鋼マーケットは今後も拡大が見込まれています。これらの増大する需要に対応するため、JFEスチールでは輸出拡大に加え、さまざまな施策を実施しています。自動車用鋼板の供給体制整備については、成長市場である中国、インド、東南アジア地域で各国のアライアンス先を通じて高級鋼の製造・販売ネットワークを確立しています。中国では、50%出資する広州JFE鋼板で冷延ミル・溶融亜鉛鍍金ラインが、タイでは100%出資するJFEスチール ガルバナイジング(タイランド)(JSGT)で溶融亜鉛鍍金ラインが、それぞれ順調に稼働しています。インドでも、戦略的提携先であるJSWスチール社で、当社が自動車用鋼板の製造技術を供与したビジャナガール製鉄所の第二冷延

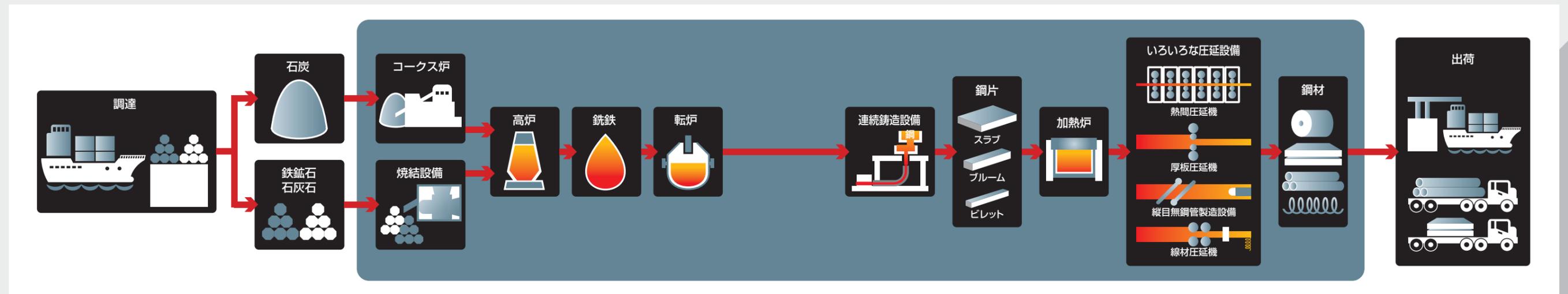
工場が稼働しました。さらにインドネシアでも当社が100%出資するJFEスチール ガルバナイジング インドネシア(JSGI)にて溶融亜鉛鍍金ラインの建設を進めています。

また、中長期的に需要の拡大が見込まれるエネルギー鋼管についても供給体制整備を進めており、当社が50%出資するカリフォルニアスチール(CSI)社が建設を進めていたNo.2電縫管製造設備が2014年10月に営業生産を開始しました。世界屈指の原油・天然ガスの生産地域である中近東においても伊藤忠丸紅鉄鋼、アブダビ首長国100%出資の投資事業会社SENAAT社と共に、エネルギー産業向けを中心とした大径溶接鋼管の製造・販売会社をアブダビに設立しました。

■ 主要な出資・アライアンス先



■ JFEスチールの生産プロセス



Highlights 2014



「Super-SINTER®」が全国発明表彰、大河内記念技術賞を受賞

当社が開発した、気体燃料吹込みによるCO₂排出量削減に適した製鉄原料製造技術「Super-SINTER®」が、全国発明表彰と大河内記念技術賞を受賞しました。本技術は、高炉の主原料となる焼結鉱の製造工程において、粉コークスの一部代替として炭化水素ガス（都市ガス）を使用する技術で、製鉄プロセスのエネルギー効率を大幅に向上させ、CO₂排出量削減に寄与します。当社が大河内賞を受賞するのは6年連続です。



野球部・競走部が大活躍

東日本、西日本硬式野球部が、ともに都市対抗野球大会と社会人野球日本選手権に出場しました。両大会ともに地域の皆様と一体となった応援を繰り広げ、西日本の橋本選手は社会人野球表彰個人記録表彰で首位打者賞を受賞し、東日本の幸松選手も千葉県と佐賀県から顕彰されました。

また、競走部も沿道からの大きな声援を受け、ディランゴ選手が2つの大会で優勝するなど、多くの大会で活躍しました。



最新の溶銑予備処理プロセスを導入した西日本製鉄所(福山地区)第3製鋼工場3号転炉が稼働

資源の節約とエネルギーの削減に寄与する、最新の溶銑予備処理プロセスを導入した西日本製鉄所(福山地区)第3製鋼工場3号転炉が稼働しました。

スチール研究所が福山地区にカスタマーセンター福山(CCF)を開設

JFEグループが保有する材料開発や、その利用技術に直接触れていただけるカスタマーセンターを、西日本の拠点である福山地区に開設しました。それにより、全国のお客様に向けて、より幅広くEVI(Early Vendor Involvement)活動を行う体制を構築しました。お客様が抱える技術的な課題を共有し、より多くの共同研究やプロジェクトを通じて、お客様との協創を推進していきます。



CSI社がNo.2電縫管製造設備を稼働

当社が50%出資する米国の鉄鋼メーカーであるカリフォルニアスチール(CSI社)社は、エネルギー分野向けの鋼管需要の拡大および高級化に対応すべく、No.2電縫管製造設備を稼働させました。この増強工事により、電縫管製造設備の製造能力は2.6倍に増加し、(製造可能最大外径)厚肉化・高強度化にも対応が可能になりました。



UAEにおいて、大径溶接鋼管の製造・販売を行う合併会社設立を決定

当社と伊藤忠丸紅鉄鋼、アブダビ首長国の投資事業会社SENAAT社は、エネルギー産業向けを中心とした大径溶接鋼管の製造および販売を行う合併会社をアブダビに設立しました。同地域は世界屈指の原油および天然ガスの生産地域であり、今後も堅調な開発・生産が予想され、その輸送に使用されるパイプライン用の高品質な鋼管の需要が見込まれます。

2014年4月

- 「革新的熱加工制御技術を駆使した高性能厚鋼板の開発育成」で科学技術分野の文部科学大臣賞 科学技術賞(開発部門)を受賞
- 「デュアルコイル電磁石による表面処理鋼板の非接触通板制御装置」が日本機械学会賞(技術)を受賞
- 知多製造所がシームレス鋼管累計生産1,500万トン達成

5月

- 西日本製鉄所(福山地区)と東日本製鉄所(京浜地区)でまつりを開催
- 石炭運搬船カーゴホールド用高耐食性厚鋼板を開発し、石炭運搬船に初採用
- 成形時の重量・寸法安定性に優れた焼結機械部品用鉄粉「JIP クリーンミックス® ZERO」を開発

6月

- ブラジル油田開発プロジェクト向けに、ケーシングパイプ用油井管「JFE-UHP®-17CR-110」を受注

7月

- 「Super-SINTER®」が全国発明表彰 経済産業大臣発明賞を受賞
- 東日本、西日本硬式野球部が第85回都市対抗野球大会に出場
- 焼結機への酸素・水素系ガスの複合吹込み技術「Super-SINTER® OXY」を世界で初めて開発

8月

- 種子コーティング用プレミックス鉄粉「粉美人®」を開発し、販売開始

9月

- 米CSI社でNo.2電縫管製造設備が稼働

10月

- 東日本製鉄所(千葉地区)でまつりを開催
- 世界最大厚の降伏強度460MPa級高アレスト鋼を開発

- 自動車骨格部品用高伸び・伸びフランジ型高張力合金化溶融亜鉛鍍金鋼板を開発
- スチール研究所が福山地区にカスタマーセンター福山(CCF)を開設

11月

- 西日本製鉄所(倉敷地区)でまつりを開催
- 東日本、西日本硬式野球部が第40回社会人野球日本選手権に出場
- 省資源型高耐熱ステンレス鋼「JFE-TF1」が「2014 R&D 100 Awards」を受賞
- ブラジル鉄鉱石事業関連資産(NAMISA)統合
- タイTCR社が環境保全部門でタイ総理大臣賞を受賞

12月

- 引張強度980 MPa級の高張力熱延鋼板「JFE-HA980SB」が世界で初めてトラック車体の衝突安全部品に採用
- 西日本製鉄所(福山地区)第3製鋼工場3号転炉が稼働

2015年1月

- 世界最高精度の炭素定量分析装置「FE-EPMA」を開発

2月

- 競走部ディランゴ選手が、千葉国際クロスカントリー大会と全日本実業団ハーフマラソン大会で優勝
- 厚鋼板の新冷却設備「Super-CR」が新機械振興賞 経済産業大臣賞を受賞

3月

- 自動車外板パネル用高強度鋼板「440MPa級ユニハイテン®」が大谷美術館賞を受賞
- 「Super-SINTER®」が第61回大河内記念技術賞を受賞
- アブダビ首長国において、大径溶接鋼管の製造および販売を行う合併会社設立を決定(2015年5月設立)

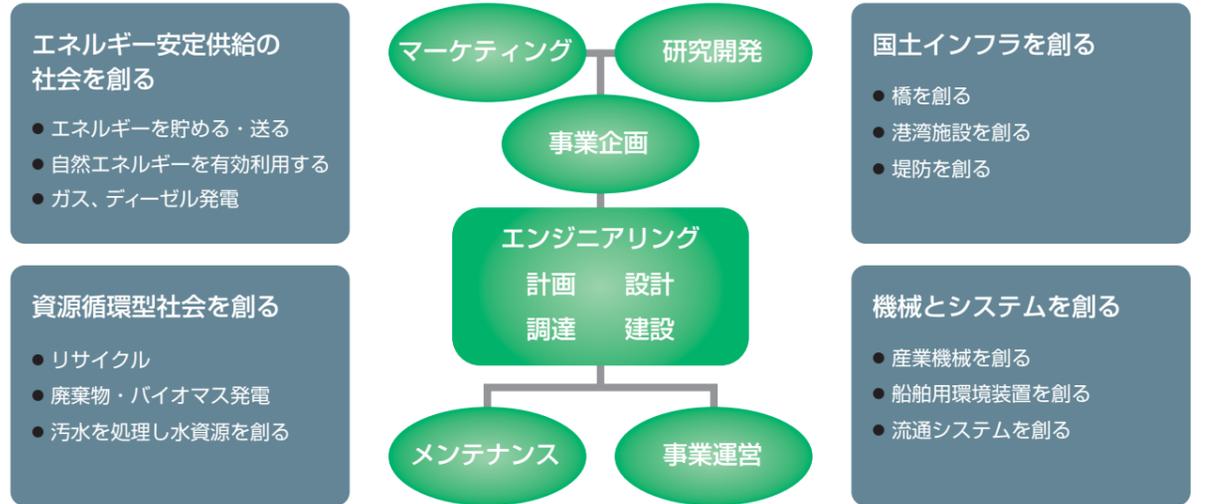


最先端技術力をベースとした商品・サービスの提供により、時代の変化に適応し、常に世界をリードするエンジニアリングカンパニーを目指します。

JFEエンジニアリングは、人々の生活と産業を支えるエンジニアリング事業を展開しています。天然ガス関連、廃棄物や下水汚泥をエネルギーとして利用する最新技術など豊富な実績を有しています。加えて近年では、バイオマス・太陽光・地熱などの再生可能エネルギーによる発電プラントも数多く手がけています。また、交通や物流、上下水などのインフラ建設においては、高品質の技術力を用いて、国内はもとより、世界各国の成長に大きく寄与しています。当社は「くらしの礎(もと)を創る」企業として、これからも絶えず、社会に最適解を提供してまいります。

代表取締役社長(CEO) 狩野 久宣

事業概要



エンジニアリング事業の概況と特徴

JFE エンジニアリング

提案から運営までの一貫ソリューション

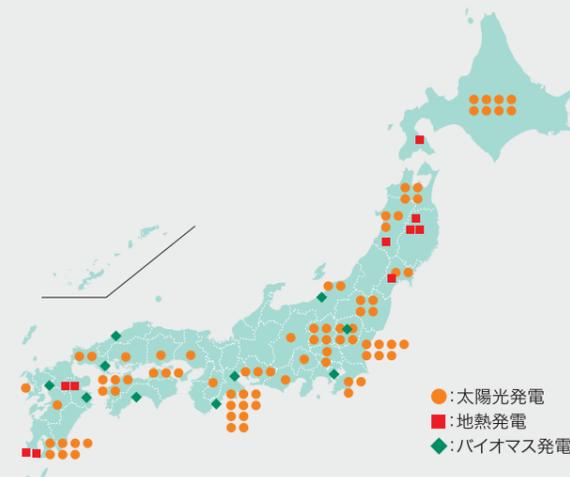
エンジニアリング企業に求められる役割は変わりつつあります。当社は建設主体の従来スタイルに加えて、提案から建設、運営まで一貫して関わるビジネスを推進しています。都市環境・アクアソリューション分野ではPFI (Private Finance Initiative) やDBO (Design Build Operate) 発注方式などの包括契約案件に積極的に取り組んでいます。



「長岡市生ごみバイオガス発電センター」 PFI事業として2013年度から当社が運営

ワンストップでの電力創生エンジニアリング

FIT (再生可能エネルギー固定価格買取制度) のもとで新しい電力の創生が期待されているバイオマス発電、太陽光発電、地熱発電などに幅広く取り組みます。事業化企画からプラントの設計建設、事業運営までワンストップのエンジニアリングサービスを展開し、収益基盤の強化・拡大に努めてまいります。



JFE エンジニアリングの再生可能エネルギー発電実績

現地化による海外事業の拡大

営業から設計、製作に至るまで一貫した現地化を積極的に推進しています。ドイツで環境・エネルギー分野のエンジニアリング事業を営むスタンダードケッセル・パワーシステムズHD社を買収するとともに、インド

ネシア、インドにおいてはM&Aにより営業・設計拠点の整備を行いました。保有する技術力をこれらの拠点に移管し、低コストで高品質のエンジニアリングサービスを推進し、海外事業の持続的成長を図ってまいります。

JFE エンジニアリング グローバル展開拠点



独スタンダードケッセル・パワーシステムズHD社買収

Highlights 2014

静岡市に太陽光発電所「三保ソーラーパワー」完工

旧清水製作所跡地に三保ソーラーパワーが完工しました。JFEグループは全国80カ所(約285MW)以上の太陽光発電所を建設し、うち8カ所(約40MW)は自社で運営しており、自然エネルギーによる電力供給を行っています。



富山新港LNG基地プラント受注

北陸電力初の天然ガス火力発電所に対応するLNG基地プラントです。国内最大級の容量18万klの地上式貯蔵タンクと気化設備、発電設備へのガス導管などを建設します。



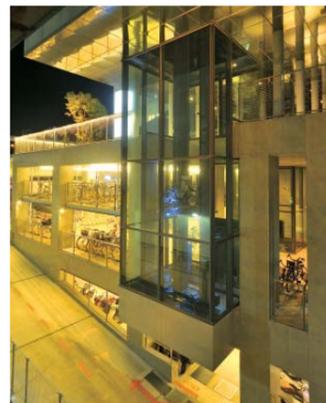
高岡広域エコ・クリーンセンター完工

新設された都市ごみ発電プラント施設は、高性能ストロカ炉「ハイパーZシリーズ」を採用することにより、設計・建設期間を短縮して約2年半で完工しました。



狩野社長が安倍総理のバングラデシュ訪問に同行

経済ミッションのメンバーとして、同国の政府関係者や経済人と意見交換を行いました。



サイクルツリー採用施設がグッドデザイン賞受賞

JR取手駅前に当社の機械式立体駐輪場が採用された「サイクルステーションとりで」が完工。機能と美しさが評価され受賞に至りました。



マレーシア産業廃棄物焼却プラント完工

ドイツ最大の廃棄物処理企業トリニケンス社とマレーシアサラワク州政府の合併会社から受注し、東マレーシアの病院や製油所などの産業廃棄物を処理します。



鬼高PAオランプ橋一括架設

首都高小松川線一之江～京葉道路原木IC間の鬼高PAオランプ橋。長さ60m、鋼重290tの大ブロックの架設を、深夜6時間の通行止めで完了させました。

南長岡ガス田設備増強を受注

天然ガスの精製・処理プラントに昇圧機などを設置することで、井戸元からの採取率を向上させます。可採埋蔵量は約2割増加、生産期間も約20年延長されます。



日本最大のコンテナクレーン完工

横浜港南本牧に完成したコンテナクレーンは世界最大級の大型コンテナ船に対応し、関東大震災クラスの地震にも耐える免震性能を有しています。



バイオマス発電を事業化

日本政策投資銀行ほか4社と共同で、株式会社グリーンエナジー津を設立し、津製作所構内でバイオマス燃料による発電事業を開始します。

ミャンマー鋼構造物製作工場がフル操業

2014年4月に操業を開始したJ&Mスチールソリューションズの初年度受注高は、年間生産能力の1万tに達し、設備増設が決定しました。



各地の都市環境プラントの遠隔支援を開始

横浜本社にリモートサービスセンターを開設し、「JFEハイパーリモート」システムにより、全国の都市環境プラントの運転、発電などの状況が24時間体制で集中管理可能になりました。

東南アジア大学生のインターンシップ

2013年度から開始し、2014年度は4カ国計20名を受入れました。各国の発展において欠かせないプロジェクトリーダーとなる人材を育成しています。



2014年4月

- 狩野久宣社長就任
- 沖縄支店開設
- 石狩LNG基地プラントとパイプラインを同時受注
- 電力小売事業に参入、アーバンエナジー株式会社設立
- 富山新港LNG基地プラント受注

5月

- 磯村豊水機工と上水プラント事業統合
- JE1最優秀チームがQCサークル全国大会で感動賞受賞

6月

- 福島復興再生支店開設
- スマートアグリ事業でオランダPriva社と協業
- オンリーワン技術3件、日本ガス協会技術賞受賞
- 沖縄初の天然ガスパイプライン完工

7月

- インドネシアとインドにエンジニアリングセンター新設
- ミャンマー鋼構造物製作工場がフル操業
- 九州北部幹線西側区間建設を受注
- 大島・地島(福岡県)の簡易水道施設更新受注
- シェゴンドライン高架橋建設プロジェクトがエンジニアリング協会功労者賞、ハイブリッド防潮堤が同奨励特別賞を受賞
- 東南アジア大学生のインターンシップ

8月

- Shape up 20プロジェクトチーム設置
- iPad miniを搭載した防塵タブレット「LANEX-Tablet」を開発・販売開始
- 苫小牧市で第1号スマートアグリプラント始動
- ミャンマー ヤンゴン市のミニコン鋼製高架橋受注
- 大分県佐伯市で50MWのバイオマス発電プラントを受注

9月

- 狩野社長が安倍総理のバングラデシュ訪問に同行
- 各地の都市環境プラントの遠隔支援を開始
- 業務改革推進チーム設置
- バイオマス発電を事業化
- 南長岡ガス田設備増強を受注
- 高岡広域エコ・クリーンセンター完工

10月

- 静岡市に太陽光発電所「三保ソーラーパワー」完工
- 苫小牧市のスマートアグリプラントでトマトの出荷開始
- 指宿地熱バイナリー発電完工
- サイクルツリー採用施設がグッドデザイン賞受賞

11月

- 日印大型プロジェクトのデリームンバイ間貨物専用鉄道の橋梁建設を受注
- 東名自動車道四日市ジャンクション一括架設
- マレーシア 産業廃棄物焼却プラント完工
- 当社代表が2年連続で全日本ボイラー溶接士コンクール優勝

12月

- 東京本社を拡張し営業部署を集約
- ドイツ スタンダードケッセル・パワーシステムズHD社の株式取得完了
- 国内初の複合バイオマス発電PFI事業を受注
- 川崎北部市場のリノベーションを完了
- ハノイ国際空港新ターミナルのジェット燃料供給設備を完工

2015年1月

- 苫小牧市のスマートアグリプラントを拡張
- JFEパラストエースのアフターサービス体制を拡大
- フィリピン バリヤニャーク下水処理施設を受注
- 伊良部大橋完工

2月

- スリランカ キャンディ市の下水処理施設を受注
- 日本初の廃棄物発電を活用した「エネルギー循環型ごみ収集システムの実証試験」の検討
- 最先端のがん診断薬の実用に向けた協業開始
- J&Mスチールソリューションズ工場設備拡張を決定
- 日本最大のコンテナクレーン完工
- 福島県の災害廃棄物処理がスタート
- 鬼高パーキングエリアオランプ橋一括架設

3月

- 福島県のゴルフ場跡地に26.2MWのメガソーラー完工



JFEグループの先駆けとしてマーケットを切り拓き、新たな価値創造に向け、商社機能を最大限に発揮していきます。

JFE商事は、鉄鋼製品の取り扱いを中心に、鉄鋼原料・資機材などの国内取引、輸出入、三国間貿易を行うほか、食品・エレクトロニクス事業なども展開しています。

国内市場では当社の強みを活かしながら、最適な販売体制を構築。海外では世界19カ国にある拠点のネットワークをフル活用し、JFEグループの輸出戦略に貢献するとともに、新たにM&A・出資で系列化した各社の販売網を活かし、地産地消ビジネスや有望市場の開拓を進めています。

また、JFEグループ各社向けに、コスト競争力のある原材料・資機材の安定的な供給も推進するなど、JFEグループの先駆けとしてさまざまな挑戦を続けています。

代表取締役社長(CEO) 矢島 勉

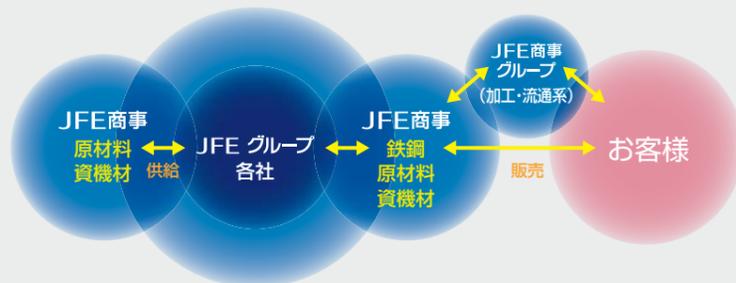
Highlights 2014

- 2014年4月**
 - K&I が中部電力西名古屋火力発電所向け特殊管を受注
 - r.bourgeois S.A. 社との北米における合併会社の設立
 - JSA 米国電子・電気技術学会および変圧器業界展示会(シカゴ)に出展
 - 製鋼原料部冷鉄源室がコンテナ積込システム FASTek による初荷役を実施
 - JSSI インドネシア・インドのスズキ社より、Best Partner 賞を受賞
 - 電機鋼材貿易室が富士ゼロックス・プレミアパートナーに3年連続認定
- 5月**
 - 新キヨイ鋼業の株式取得
 - JFE商事鋼管管材が長野県の管工機材商社・昭和企業を子会社化
- 6月**
 - JFE商事テルワン、EE東北'14にJFEグループで共同出展
 - JFE商事エレクトロニクス NEPCON Thailand 2014に出展
- 7月**
 - 第一薄板貿易室とフィリピンJFE商事がミンダナオ・コンテナ社よりベストサプライヤーに指定
- 10月**
 - JFE商事鉄鋼建材が沖縄プロジェクト協力チームを発足
 - JFE商事鋼管管材がタイ・バンコクに駐在員を派遣
- 11月**
 - リオデジャネイロ支店を開設
- 12月**
 - JFE商事鉄鋼建材 鉄構安全協会発足・第1回総会開催
 - 米国鋼管問屋 Kelly Pipe の買収合意
- 2015年2月**
 - 自動車鋼材本部の新設
 - JFE商事グループ 棒線事業の統合を決定
- 3月**
 - メキシコにおける引抜鋼管合併事業会社設立を合意

商社事業の概況と特徴

鉄鋼事業

国内外における競争力向上に向け、技術サービスも含めた原料調達から、お客様ニーズを捉えた製品の加工までを実施し、JFEグループの鉄鋼サプライチェーンの一翼を担っています。



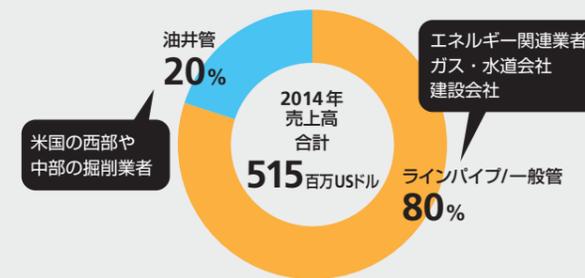
世界に広がるネットワーク

JFEグループの中核商社として、世界19カ国55カ所の拠点をJFE商事グループとして保有しています。2014年には、メキシコシティ、リオデジャネイロと今後、鉄鋼製品や鉄鋼原料取引の拡大が期待できる地域に拠点を設立し、JFEグループにおける先駆けとして、新規市場の開拓を進めています。

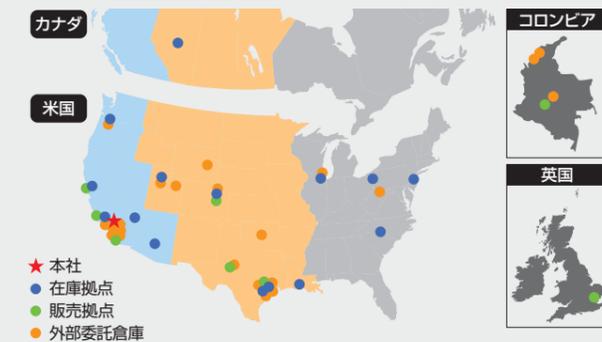


米国鋼管問屋 Kelly Pipe を買収

1898年創業、100年以上の歴史と全米を網羅する販売ネットワーク、あらゆる用途に対応する豊富な鋼管製品を有する米国内大手鋼管問屋のKelly Pipe Co.,LLCを2014年12月に買収しました。



【Kelly Pipeの販売拠点】全米に21カ所、カナダ・英国・コロンビアに各1カ所、合計24カ所の販売拠点を展開



ヤシマナダをグループ会社化

西日本の各地域に、建築構造用材であるコラムの販売・加工拠点を配し、豊富な在庫、充実した加工設備と柔軟性のあるデリバリー体制を有するヤシマナダをJFE商事鉄鋼建材傘下へグループ会社化。



ヤシマナダのコラムの加工力とJFE商事鉄鋼建材の販売網を連携強化し、シナジーを発揮していきます。

【ヤシマナダの加工・販売拠点】



大阪・三重・岡山・福岡と西日本4カ所に加工・販売拠点を有する



造船業界のリーディングカンパニーを目指し、「技術」と「ものづくり」で社会の発展に貢献します。

2013年1月、ユニバーサル造船とアイ・エイチ・アイマリンユナイテッドが統合し、ジャパン マリンユナイテッド(JMU)が誕生してから、2年が経過しました。

この間、統合により結集・強化された「開発・技術力」、「営業力」、「大型建造設備」などの経営資源を最大限に活用し、商品ラインアップの拡充を図るとともに、省エネ・環境負荷低減技術の開発にいち早く取り組んでまいりました。今後もお客様のニーズに応える優れた性能と品質の船をタイムリーに提供してまいります。

代表取締役社長(CEO) 三島 慎次郎

ジャパン マリンユナイテッド

JMU エコシップ続々竣工



SHOYOH

2013年7月に引き渡した97,000DWT石炭運搬船「SHOYOH」が日本船舶海洋工学会主催のシップ・オブ・ザ・イヤー2013で、大型貨物船部門賞を受賞しました。

「SHOYOH」は大型撒積み貨物船として、世界で初めて二重反転プロペラ(CRP)を搭載し、新開発の船尾付加物と合わせて燃費が約16%向上しました。また主機関の排ガスを利用する排ガスボイラー発電により、発電用の燃料・環境負荷が半減しました。

JMUは2014年もさまざまな船型のエコシップを世に送り出しています。5月に国内の港湾規制緩和を先取りした最新鋭の超大型タンカー(VLCC)シリーズの1番船「ENEOS OCEAN」、7月にはダンケルクマックスと呼ばれる大型の撒積船のGシリーズ、G182BCの1番船「PELOREUS」を、そして12月には「FUTURE」シリーズの新船型「FUTURE 60」バルクキャリアの1番船「IVS NARUO」を竣工し、お客様に引渡しました。JMUのエコシップは、最新の解析技術を用い最適な船体形状を追求し

開発し、最新の省エネ技術を用いて優れた環境性能を発揮しています。EEDIという船舶の国際的なエネルギー効率設計指標で、ベースラインから20%を超える低減を達成し2020年の規制値をクリア、お客様から高い評価を得ています。



ENEOS OCEAN IVS NARUO PELOREUS

高効率ハイブリッドCRP推進システムを搭載した大型フェリーを受注

JMUは統合後初めて大型フェリーを2隻受注しました。今回受注した船は二重反転プロペラ推進システムに加え、各種省エネ付加物の導入、最適船型の開発により優れた低燃費性能を達成しています。2隻とも2017年の竣工後は茨城県・大洗港～北海道・苫小牧間の定期航路に投入される予定です。



ハイブリッドCRP推進システム

Highlights 2014

- 2014年4月**
 - 「海洋・エンジニアリング事業本部」、「ライフサイクル本部」新設
 - 14,000TEUコンテナ船を8隻受注
 - 5月**
 - 最新鋭VLCC「ENEOS OCEAN」が命名・引渡し
- 6月**
 - 「SHOYOH」が「シップ・オブ・ザ・イヤー2013 大型貨物船部門賞」を受賞
- 7月**
 - 次世代省エネ型バルクキャリア(G182BC)の1番船「PELOREUS」が引渡し

- 津田尚輝IHIMU元社長が海洋立国推進功労者表彰(内閣総理大臣賞)を受賞
- 10月**
 - 高効率ハイブリッドCRP推進システムを搭載した大型フェリーを受注
- JBS社員乗松聖矢さんが「アジアパラ大会・ウェルチエアークビー」で金メダル
- 12月**
 - 省エネ船、人気商品「FUTURE 60」の1番船「IVS NARUO」が引渡し

- 2015年3月**
 - 中型掃海艇「はつしま」が引渡し
 - 国内最大級ヘリコプター搭載護衛艦「いずも」が引渡し

2013年1月1日～



2003年4月1日 事業会社設立



2002年9月27日 JFEホールディングス発足

<p>1969.7 千葉製鉄所西工場埋め立て開始</p>	<p>1971.12 京浜製鉄所扇島建設に着工</p>
<p>1961.7 岡山県倉敷市に水島製鉄所開設</p>	<p>1969.1 津造船所発足</p>
<p>1951.2 戦後わが国初の近代的鉄鋼一貫製鉄所となる千葉製鉄所を開設</p>	<p>1968.4 京浜製鉄所を開設(川崎・鶴見・水江の3製鉄所を統合)</p>
<p>1950.8 川崎重工業(株)の製鉄部門を分離・独立し、川崎製鉄(株)を設立(初代社長 西山彌太郎)</p>	<p>1965.2 福山製鉄所を開設</p>
<p>1943.8 愛知県に知多工場を開設</p>	<p>1940.10 鶴見製鉄造船(株)(旧浅野造船所)を合併</p>
<p>1917.5 神戸市に葦合工場を開設</p>	<p>1936.6 最初の高炉に火入れし、鉄鋼一貫体制を確立</p>
<p>1896.10 (株)川崎造船所を設立(のち川崎重工業(株)と改称)</p>	<p>1916.4 (株)横浜造船所を設立(のち浅野造船所に改称)</p>
<p>1878.4 川崎正蔵が東京築地に川崎築地造船所を創業</p>	<p>1912.6 日本鋼管(株)を設立(初代社長 白石元治郎)</p>
川崎製鉄	日本鋼管(NKK)

持続可能な社会の発展のために

お客様・お取引先様とともに

各種認証やマネジメントシステムを整備するとともに、お客様と一体となった商品開発施設を開設するなど、お客様ニーズに基づく高品質な商品・サービスの提供を通じて、お客様の競争力向上に貢献します。



研修風景

株主・投資家の皆様とともに

適時・適切な会社情報の提供を重視し、即時性の高いウェブサイトを活用しているほか、決算発表の早期化に努めています。また、事業活動への理解を深めていただくため、工場見学会やIR説明会を開催しています。



株主工場見学会

社会の発展



従業員とともに

多様な従業員が活力を持って働ける職場環境を目指して、雇用の促進や健全な労使関係の継続、安全で働きやすい職場環境の整備、障がい者雇用、人権を尊重した行動の促進などに取り組んでいます。



人材育成

地域社会の皆様とともに

事業拠点を展開する地域社会の発展に貢献するため、大学研究・教育分野の催し、文化活動や福祉活動、災害復旧活動への支援など、さまざまな社会貢献活動を継続的に実施しています。



ものづくり教室

JFEグループは、地球環境の保全に一層努め、環境と調和した企業として発展を目指すとともに、社会の要請に誠実に応え、すべてのステークホルダーから信頼される企業を目指しています。

地球環境に優しい製造プロセス

鉄鋼事業の製造プロセスにおけるエネルギー効率、省エネルギー設備の導入などを推進してきた結果、世界最高水準を達成しています。さらなる技術開発により、省資源・省エネルギーおよび環境負荷低減に継続して取り組みます。



フェロコックス製造設備

環境配慮製品・サービス提供

低炭素社会の構築に不可欠な高機能鋼材の供給やリサイクル事業、再生可能エネルギーの取り組みなど、製品やサービスを通じてエコな社会の構築に貢献しています。



ソーラー発電

環境との調和



社会の要請に応えるソリューション

世界最高水準の技術や製品を、途上国を中心に世界各地に移転・普及させていくことにより、地球規模での省資源・省エネルギーに貢献しています。



エコプロダクツ2014

JFE グループCSR報告書 (2015年9月発行予定)

JFEグループCSR報告書では、社会・環境側面について、より詳細な情報を掲載しています。

<http://www.jfe-holdings.co.jp/environment/>



主要経営指標 JFEホールディングスおよび連結子会社

財務情報 株主・投資家の皆様へ URL <http://www.jfe-holdings.co.jp/investor/index.html>

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
(百万円)					
経営成績(会計年度)					
売上高	3,195,560	3,166,511	3,189,196	3,666,859	3,850,355
営業利益	182,810	44,779	39,873	153,327	222,599
金利前経常利益*1	182,268	68,075	66,588	187,622	245,533
経常利益	165,805	52,977	52,214	173,676	231,001
当期純利益	58,608	△36,633	39,599	102,382	139,357
キャッシュ・フロー(会計年度)					
営業活動によるキャッシュ・フロー	302,603	110,087	287,071	254,809	297,380
投資活動によるキャッシュ・フロー	△302,282	△205,494	△163,616	△164,020	△216,313
フリー・キャッシュ・フロー*2	320	△95,406	123,455	90,789	81,067
財務活動によるキャッシュ・フロー	23,073	96,078	△147,550	△105,576	△78,247
財政状態(会計年度末)					
総資産	3,976,644	4,007,263	4,107,519	4,241,700	4,639,412
有形固定資産	1,712,318	1,644,884	1,606,862	1,599,148	1,629,591
純資産	1,478,310	1,456,340	1,596,797	1,745,930	1,990,023
借入金・社債等残高	1,496,413	1,593,633	1,596,363	1,534,036	1,501,760
設備投資状況その他					
設備投資額	180,492	197,449	179,679	175,715	225,902
減価償却費	246,666	238,316	194,062	181,311	176,017
研究開発費	33,523	34,243	33,662	31,177	32,488
粗鋼生産量(千トン)	31,472	29,235	30,687	31,584	31,045
従業員数(人)	54,400	54,133	57,044	57,210	58,856
財務指標					
売上高経常利益率(ROS)*3	5.2%	1.7%	1.6%	4.7%	6.0%
総資産金利前経常利益率(ROA)*4	4.6%	1.7%	1.6%	4.5%	5.5%
自己資本利益率(ROE)*5	4.1%	△2.6%	2.7%	6.3%	7.7%
自己資本比率	36.2%	35.3%	37.9%	40.1%	41.8%
D/E レシオ*6	76.5%	83.5%	76.9%	67.9%	59.0%
1株当たり情報					
当期純利益(円)	110.73	△68.71	71.20	177.44	241.60
純資産(円)	2,708.51	2,627.63	2,700.83	2,950.61	3,362.22
配当金(円)	35	20	20	40	60

*1 金利前経常利益=経常利益+支払利息

*2 フリー・キャッシュ・フロー=営業活動によるキャッシュ・フロー+投資活動によるキャッシュ・フロー

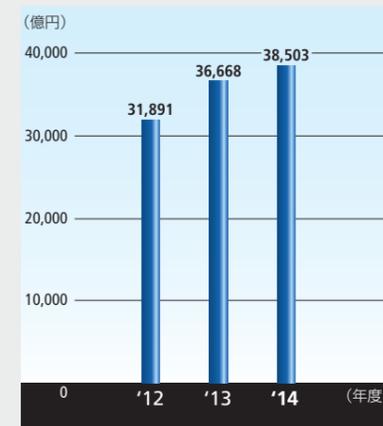
*3 売上高経常利益率(ROS)=経常利益/売上高×100

*4 総資産金利前経常利益率(ROA)=(経常利益+支払利息)/期中平均総資産×100

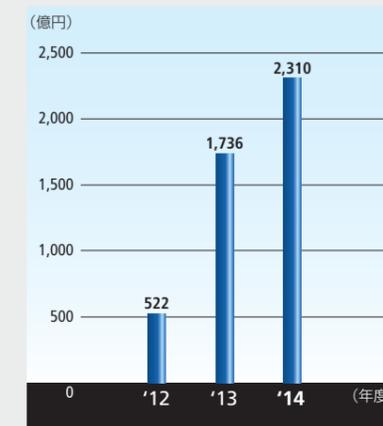
*5 自己資本利益率(ROE)=当期純利益/期中平均自己資本×100

*6 D/E レシオ=借入金・社債等残高/自己資本×100
但し、格付評価上の資本性を併せ持つ負債(3,000億円)について、格付機関の評価により、75%を資本に算入。

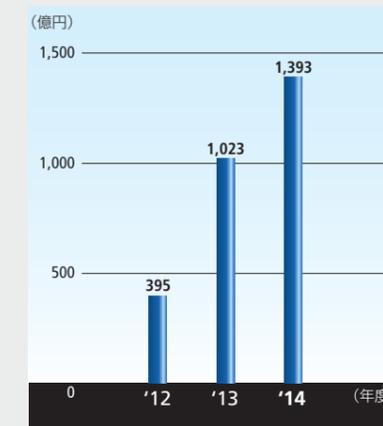
売上高



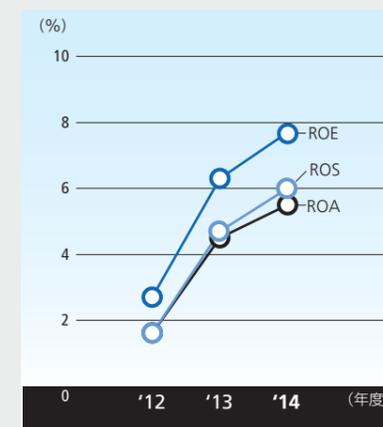
経常利益



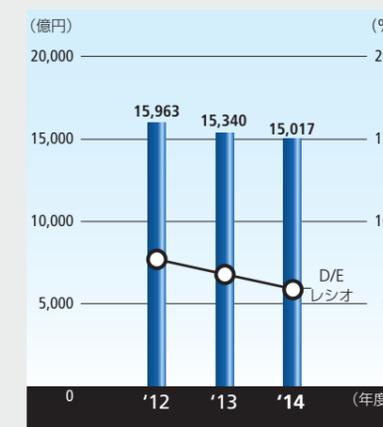
当期純利益



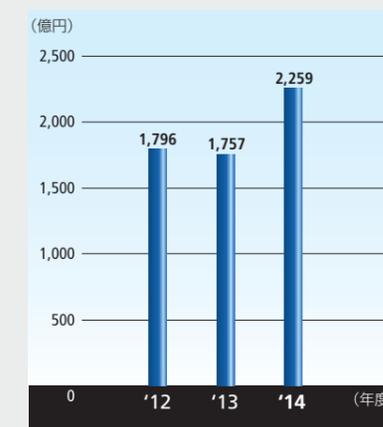
ROS*3 / ROA*4 / ROE*5



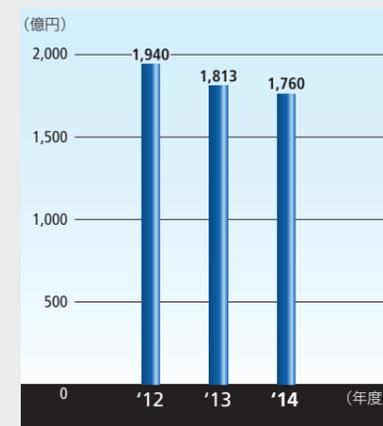
借入金・社債等残高 / D/E レシオ*6



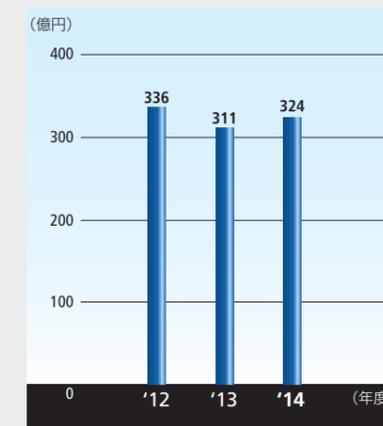
設備投資額



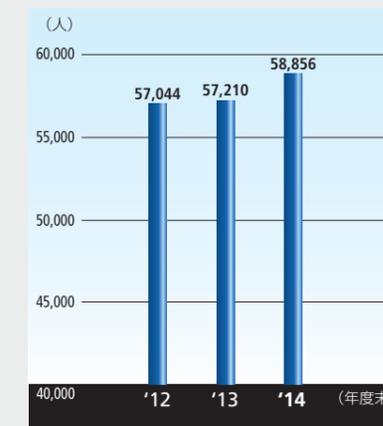
減価償却費



研究開発費



連結従業員数



会社概要 (2015年4月1日現在)

名称(商号)	JFE ホールディングス 株式会社	設立年月日	2002年9月27日
	[英文名称: JFE Holdings, Inc.]	資本金	1,471億円
本社所在地	〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号	URL	http://www.jfe-holdings.co.jp/
電話	03-3597-4321(代表)		

事業会社・主要グループ会社 (2015年4月1日現在)

鉄鋼事業 売上高 28,738億円 従業員数 43,680名

JFE スチール 株式会社

本社(東京都千代田区)

グループ会社

- 電炉・条鋼
 - JFE 条鋼(株)
- 鋼材加工品、原材料などの製造・販売
 - JFE ケミカル(株)
 - JFE 建材(株)
 - JFE 鋼板(株)
 - JFE コンテナ(株)
 - JFE ミネラル(株)
 - JFE 鋼管(株)
 - 水島合金鉄(株)
 - JFE 継手(株)
 - JFE 鋼材(株)
 - JFE マテリアル(株)
 - JFE 精密(株)
 - リバースチール(株)
 - JFE 電磁鋼板(株)
 - フィリピン・シンター・コーポレーション
 - ノバエラシリコン・SA
 - JFE スチール・ガルバニライジング(タイランド)・リミテッド
 - タイ・コーテッド・スチール・シート・カンパニー・リミテッド
 - PT. JFE スチール ガルバニライジング インドネシア
 - 品川リフラクトリーズ(株)*
 - 日本鑄造(株)*
 - 日本鑄鉄管(株)*
 - エヌケーケーシームレス鋼管(株)*
 - 東国製鋼(株)*
 - 広州JFE 鋼板有限公司*
 - タイ・コールド・ロールド・スチール・シート・パブリック・カンパニー・リミテッド*
 - JSW スチール・リミテッド*
 - 内モンゴル多ス EJM 鋳合金有限公司*
 - 攀成伊紅石油鋼管有限責任公司*
 - カリフォルニア・スチール・インダストリーズ・インク*
- 運輸・倉庫、製鉄所内の保安・工事、ユーティリティ供給など
 - JFE 物流(株)
 - JFE シビル(株)
 - JFE メカニカル(株)
 - JFE 電制(株)
 - 瀬戸内共同火力(株)*
 - (株)JFE サンソセンター*
- 商社、その他鉄鋼関連
 - JFE ライフ(株)
 - JFE システムズ(株)
 - JFE テクノリサーチ(株)
 - JFE 東日本ジーエス(株)
 - JFE スチール・オーストラリア・リソーシズ・プロプライタリー・リミテッド
 - ジェコス(株)
 - 日伯鉄鉱石(株)*
 - 日伯ニオブ(株)*
 - (株)エクサ*

エンジニアリング事業

売上高 3,673億円 従業員数 8,472名

JFE エンジニアリング 株式会社

本社(東京都千代田区)/横浜本社(横浜市)

グループ会社

- JFE テクノス(株)
- JFE 環境(株)
- あすか創建(株)
- ジャパン・リサイクル(株)
- JFE 環境サービス(株)
- 北日本機械(株)
- 東北ドック鉄工(株)
- SBG(スタンダードケッセル・パウムガルテグループ)
- ジャパントネルシステムズ(株)*
- スチールプランテック(株)*

* 持分法適用会社
※売上高:2014年度実績
※従業員数:2015年3月31日現在

商社事業 売上高 19,344億円 従業員数 6,667名

JFE 商事 株式会社

本社(大阪市)/東京本社(東京都千代田区)

グループ会社

- 【国内】
 - 鉄鋼(厚鋼板加工)
 - JFE 商事造船加工(株)
 - 鉄鋼(薄鋼板加工)
 - JFE 商事コイルセンター(株)
 - JFE 商事甲南スチールセンター(株)
 - 水島鋼板工業(株)
 - 鉄鋼(建材系流通)
 - JFE 商事鉄鋼建材(株)
 - JFE 商事薄板建材(株)
 - 鉄鋼(鋼管系加工・流通)
 - ケー・アンド・アイ 特殊管販売(株)
 - JFE 商事鋼管管材(株)
 - テールアルメ
 - JFE 商事テールワン(株)
 - 食品
 - 川商フーズ(株)
 - エレクトロニクス
 - JFE 商事エレクトロニクス(株)
- 【海外】
 - 中国
 - 東莞川電鋼板製品有限公司
 - 広州川電鋼板製品有限公司
 - 浙江川電鋼板加工有限公司
 - 江蘇川電鋼板加工有限公司
 - フィリピン
 - JFE SHOJI STEEL PHILIPPINES, INC.
 - タイ
 - CENTRAL METALS(THAILAND)LTD.
 - STEEL ALLIANCE SERVICE CENTER CO., LTD.
 - ベトナム
 - JFE SHOJI STEEL VIETNAM CO., LTD.
 - JFE SHOJI STEEL HAI PHONG CO., LTD.
 - インド
 - JFE SHOJI STEEL INDIA PRIVATE LIMITED
 - マレーシア
 - JFE SHOJI STEEL MALAYSIA SDN. BHD.
 - シンガポール
 - KAWARIN ENTERPRISE PTE. LTD.
 - インドネシア
 - PT. JFE SHOJI STEEL INDONESIA
 - 米国
 - VEST INC.
 - Kelly Pipe Co., LLC
 - メキシコ
 - JFE SHOJI STEEL DE MEXICO, S.A. DE C.V.

(持分法適用会社)

ジャパン マリンユナイテッド 株式会社

本社(東京都港区)

グループ会社

- (株)JMU アムテック
- (株)IMC
- JMU ディフェンスシステムズ(株)

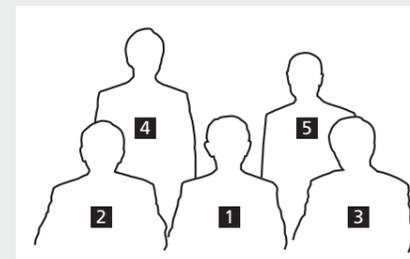
JFE ホールディングス 取締役、監査役および執行役員



取締役

- 1 代表取締役社長..... 林田 英治
- 2 代表取締役..... 柿木 厚司
- 3 代表取締役..... 岡田 伸一
- 4 取締役..... 前田 正史
- 5 取締役..... 吉田 政雄

※前田正史および吉田政雄の両氏は社外取締役。



執行役員

- 社長..... 林田 英治 CEO
- 副社長..... 岡田 伸一 総務部、IR部、財務部の統括
企画部の担当
- 専務..... 寺畑 雅史 総務部の担当
- 常務..... 大木 哲夫 IR部、財務部の担当

監査役

- 監査役(常勤)..... 笹本 前雄
- 監査役(常勤)..... 黒川 康
- 監査役..... 伊丹 敬之
- 監査役..... 大八木 成男

※伊丹敬之および大八木成男の両氏は社外監査役。



JFE ホールディングス 株式会社

〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号

<http://www.jfe-holdings.co.jp/>